

## 第39回運営委員会議事録

日時：2016年11月11日（金）午後6時～午後8時

場所：青山学院大学経営学部グローバル・ビジネス研究所内セミナールーム（8号館6階）

出席者：駒本文保（東京大学）、姫野哲人（滋賀大学、竹村委員代理）、福井武弘（青山学院大学）、山口和範（立教大学）、西郷浩（早稲田大学）、宿久洋（同志社大学）、舟岡史雄（日本統計協会）、岩崎学（成蹊大学）、中西寛子（成蹊大学・名誉教授）、川崎茂（日本大学）、美添泰人（青山学院大学）

書記：藤森裕美（青山学院大学）、保科架風（青山学院大学）

委任・欠席：狩野裕（大阪大学）、田村義保（総合研究大学院大学）、岩崎学（成蹊大学）、渡辺美智子（慶応義塾大学）、

### 資料

- (資料0) 第36回、第37回、第38回運営委員会議事録（案）
- (資料1) 各大学の活動
- (資料2) 主要委員会の活動
- (資料3) 2016年11月27日 連携大学向け統計検定
- (資料4) 拡大版JINSE 創設の案内（案）
- (資料5) 2017年2月17日 JINSE 主催シンポジウム（案）
- (資料6) 2017年3月5日 日本統計学会春季集会 企画セッション
- (資料7) 統計関連講演動画の提供について
- (参考-1) 運営委員会議題関連報告・検討課題のメモ
- (参考-2) 拡大版JINSE 予算案等

### 議題

#### 0. 運営委員会議事録確認

第36回、第37回、第38回運営委員会議事録を資料0に沿って確認し、若干の修正の上で承認された。

#### 1. 各連携大学の活動活動報告

資料1に沿って、各大学の取組担当者および運営委員長から、以下の報告があった。

##### 東京大学（駒本文保）

- (1) 2016年11月27日に実施する連携校向け統計検定の準備を行った。
- (2) 連携校向け統計検定アンケートの実施準備を行った。

##### 滋賀大学（竹村彰通）

- (1) 2016年11月27日に実施する連携校向け統計検定の準備を行った。
- (2) JINSEのカリキュラム委員会の成果を、滋賀大学における数理・データサイエンス教育の充実に活用することを検討している。

## 大阪大学（狩野裕）

### (1) 狩野 裕

- 1.1 JINSE 運営委員会の出席 (6/25)
- 1.2 H28 年度副プログラム「データ科学」の実施 (H28 年度)
- 1.3 データ科学特論 II の実施 (8/29-9/2). 特別聴講学生として外部生の受け入れ (3 名), 公開講義として一般聴講の受け入れ (25 名)
- 1.4 英語講義「Date Science and Case Studies (Prof. Hayter)」の実施, (7/19-7/22)
- 1.5 統計関連学会連合大会「企画セッション：JINSE の展開」でのパネラー (9/5)
- 1.6 JINSE シンポジウムの準備と実施 (10/22), 参加者 96 名, 意見交換会 42 名
- 1.7 H29 年度副プログラムの継続申請
- 1.8 特任研究員の人選

### (2) 西田 豊：(特任助教 10/31 雇用終了)

- 1.1 H28 年度副プログラム「データ科学」の実施 (H28 年度)
- 1.2 データ科学特論 II の実施 (8/29-9/2), 特別聴講学生として外部生の受け入れ (3 名), 公開講義として一般聴講の受け入れ (25 名)
- 1.3 JINSE シンポジウムの準備と実施 (10/22), 外部参加者 96 名 (意見交換会 42 名)
- 1.4 H29 年度副プログラムの継続申請
- 1.5 H28/9 副プロ修了判定 (9 月分) の確認

### (3) 中平あずさ (事務補佐員 6/1 雇用開始)

- 1.1 JINSE シンポジウムの準備と実施 (10/22)
- 1.2 予算管理
- 1.3 西田先生と引継ぎ
- 1.4 雇用事務手続き
- 1.5 2016 年 11 月 27 日に実施する連携校向け統計検定の準備

## 総合研究大学院大学 (田村義保)

### (1) 大阪大学で開催されたシンポジウムの運営に協力した

## 青山学院大学 (福井武弘・美添泰人)

- (1) JINSE ホームページの英語版について編集作業を進め, おおむね準備を終了した.
- (2) デジタル化したビデオ教材の提供方法について検討している.
- (3) 10 月 22 日に大阪大学で実施したシンポジウムに関して, プログラム冊子の編集を行った.
- (4) 2016 年 11 月 27 日に実施する連携校向け統計検定の準備を行った.
- (5) 2017 年 4 月に開始する拡大版 JINSE の活動について準備を進めている.

## 多摩大学 (今泉忠)

- (1) 2016 年 11 月 27 日に実施する連携校向け統計検定の準備を行った.
- (2) 2017 年度開始経営情報学部経営情報学会データサイエンスプログラムについて, 科目配置などを行った.

## 立教大学 (山口和範)

- (1) 2016年11月27日に実施する連携校向け統計検定の準備を行った。
- (2) 統計検定のガイダンスおよび各種講習会を実施した。
- (3) R活用のためのオンライン教材の開発を行った。
- (4) 2017年度の開講科目の内容等の確認を行った。
- (5) 海外アドバイザー会議の準備を進めた。

#### 早稲田大学（西郷浩）

- (1) 2016年11月27日に実施する連携校向け統計検定の準備を行った。
- (2) 「統計学入門02」（2016年度秋学期）の筆記試験（統計検定3級利用）の実施準備を行った。

#### 同志社大学（宿久洋）

- (1) 2016年11月27日に実施する連携校向け統計検定の準備を行った。
- (2) 連携校向け統計検定アンケートの実施準備を行った。
- (3) 2017年度開始の文化情報学部新教育プログラムについて実施準備を行った。

## 2. 主要委員会の活動報告

### 2.1 外部評価委員会（舟岡委員長）

- (1) 平成28年度は最終年度として本事業の活動全体に対して包括的な評価を与える事業評価委員会を年度末に開催する他、次項の報告書を検討するために、来年1月までに外部評価委員会をメールにより開催する。
- (2) 外部評価委員会報告書の取りまとめについて  
申請書に明記された計画の第1段は2014年度に作成された報告書「社会が求める人材と統計教育」の提示をもって終了したが、将来に向けてその趣旨をより明確にするため、報告書の内容を点検した上で委員の意見を整理して集約する。

### 2.2 質保証委員会

- (1) 質保証委員会としての参照基準の改訂作業は終了した。現在は、学習効果の評価方法について検討を進めている。
- (2) 早大「統計学入門01」（2016年度春学期）の問題別正答率を利用して、「統計学入門」の講義内容について検討した。

### 2.3 カリキュラム策定委員会

政治学，社会学，品質管理，生物科学，情報学，総合理工学の各分野におけるカリキュラムについて宿久委員長と中西委員で分担し，各分野を専門とする教員に依頼し，あるいはWGを作って検討を行った。

情報学分野，総合理工学分野のカリキュラム検討を行った際に，「理系（共通教育）」「理系（専門）」に分けて作成する案が提案された。理系（共通教育）は，学部を問わず共通教育レベルで学ぶべき内容で作成し，理系（専門）はいくつかの科目ごとに作成することになった。まず，多変量解析，ベイズ統計，時系列解析について作成する。

### 2.4 海外アドバイザー会議委員会（山口委員長）

新たな海外アドバイザーメンバーとして，University of Minnesota の Robert delMas 氏の就任が承認され，次の内容で会議を開催する予定である。招聘者：Robert delMas (University

of Minnesota)

期間：2017年3月11日(土)～3月18日(土)

目的：JINSEの活動に対する意見聴取および最近の米国における統計教育の動向に関する情報提供

#### 2.5 高大連携委員会（竹村委員長）

- (1) 統計関連学会連合および連携団体と協力して、「高度情報化・データサイエンス社会における国民の科学的判断力・探究力強化に向けた新科目『数理探究(仮称)』内容への要望書」をとりまとめ、文部科学省に提出した他、教科書会社、スーパーサイエンスハイスクール指定高校、教育学系大学等に配布した。
- (2) 総務省政策統括官編集・発行の中高校生向け学習ワークシート「生徒のための統計活用～基礎編～」生徒用、指導用の制作に協力した。生徒用は総務省統計局HPで公開、指導用は連携団体である日本統計協会から出版されている。現在、続編の高校生・大学生向け「生徒のための統計活用～実践編～」の制作に協力中である。

#### 2.6 システム開発WG（山口委員・宿久委員）

拡大版JINSEへの移行について準備を開始した。

#### 2.7 FD活動WG（美添委員長）

Jimmy A. Doi氏(Department of Statistics, Calif Polytechnic State Univ.)から提供された資料に基づいて、アメリカにおける統計教育の体系について検討した。

### 3. 2016年11月連携大学向け統計検定

資料3に沿って、2016年11月連携校向け統計検定の受験申込者について確認した。

関連して、西郷委員および宿久委員より以下の報告があった。今年度の早稲田大学の統計検定利用者は、前期・後期合算で減少した。同志社大学文化情報学部では拡大版JINSEの枠組みで統計検定の利用を継続することを計画している。

### 4. 拡大版JINSEの計画

資料4および参考資料2に沿って美添委員より拡大版JINSEの計画について、統計検定企画委員会で議論した内容が報告された。

検討の結果、以下の通りの修正を加えて大学等への案内文書案を作成し、それに対応する規則を整備することになった。

- (1) 現状のJINSEと同じく拡大版JINSEも組織として構成し、事務局を統計教育連携センターに置く。
- (2) 会員の種別を個人会員、準組織会員(学部・学科等)、組織会員(大学等)とし、対応して、会員の権利、会費を整理して記述する。
- (3) 組織会員の参加登録で必要な手続き(統計関連科目担当教員のリスト等)を明確にする。
- (4) 会員には、会員の種別ごとに異なる数の教育コンテンツ閲覧用パスワードを発行する。
- (5) JINSE版統計検定の利用について、最低限の受験申込科目数を原案の50科目から40科目に変更する。合わせて、6月試験と11月試験の各回ごとに受験料金が発生することを明確に記述する。

- (6) JINSE 版統計検定については、個人会員がゼミ単位で利用する場合には受験料金が割高になることもあり、団体受験などの選択は会員の判断であることをわかりやすくする。また、統計検定受験資格者の基準を明確にしたうえで、資格の認定は会員の責任で実施する。
- (7) 事務局関連の記述は最後に置く。

なお、拡大版 JINSE の運営についても運営組織・規約等の原案を作成することとなった。他組織の規定を参考にして拡大版 JINSE の運用規則案を定め、財団法人統計質保証推進協会の理事会で検討を依頼する必要があることから、これについては継続審議とされた。

さらに、拡大版 JINSE 予算案について確認が行われ、北海道大学クラウドの利用料金は変動があること、キャノン IT ソリューションへのシステム保守費用については値下げ交渉の余地があることが、宿久システム開発 WG 委員より報告された。

今後の拡大版 JINSE への参加については、同志社大学、立教大学等は大学が会員になる可能性があること、早稲田大学、青山学院大学は学部単位での参加が想定されることが報告された。

## 5. シンポジウム等

### 5.1 2017 年 2 月 17 日 JINSE 主催シンポジウム

資料 5 に沿って美添委員より報告が行われ、議論の結果、文科省が「成果報告シンポジウム」に期待する内容を確認しながら、以下のような方針で準備を進めることになった。シンポジウムの具体的な内容と時間配分は次回の運営委員会で検討し、確定する。

- (1) 日時と場所は次の通り確定している。2017 年 2 月 17 日 (金) 午後 2 時から、青山学院大学 本多記念国際会議場
- (2) 事業全体の報告を中心として、総括的な活動報告の後、主要な成果を大阪大学、早稲田大学、滋賀大学などが報告し、その他の大学は文書による資料提供だけという方法を検討する。  
カリキュラム策定委員会の成果を活用した授業改善、統計検定を利用した学習達成度の評価、などの具体的な報告が望ましい。
- (3) 外部評価委員による活動の総括は必須である。
- (4) 今後の展望については拡大版 JINSE の計画、大阪大学、早稲田大学、滋賀大学における具体的な展開を報告する。
- (5) 開会と閉会の挨拶は、青山学院大学学長（副学長）、連携団体からの来賓、文科省など、候補者に打診しながら確認する。
- (6) 連携団体、連携学会を含めて外部に広く告知し、拡大版 JINSE など、今後の展望について周知を図る。なお、連携学会からの総括は実施しない。

### 5.2 2017 年 3 月 5 日 日本統計学会春季集会 企画セッション

資料 6 に沿って美添委員より、2017 年 3 月 5 日 (日) に政策研究大学院大学（六本木）で開催される第 11 回日本統計学会春季集会における企画セッションについて報告が行われ、議論の結果、以下のような結論を得た。

オーガナイザーを美添委員、座長を中西委員とし、講演者と時間配分については竹村委員（滋賀大学の今後の展開、25 分）と狩野委員（大阪大学の大学院高度副プログラム、25 分）、拡大版 JINSE の責任者（12 月頃に決定、20 分）、および質疑応答（20 分）として、講演候補者に打診することとなった。

## 6. 庶務事項

### 6.1 青山学院大学連携事務職員

新たに10月から勤務を開始した内藤さんが紹介された。

### 6.2 次回以降の運営委員会日程について

次回の運営委員会は、2016年12月15日、16日、17日、22日を候補として調整する。

以上